

令和6年度 練馬区立南が丘中学校 学校評価報告書

練馬区立南が丘中学校
校長 宮田 健史

1 自己評価結果

(1) 確かな学力の定着・体力の向上につながる授業の実践

- ① 毎時間、「めあて」を提示し、その時間に生徒が何を学ぶかを明確にしてきた。学校評価では生徒から77.9%の肯定的な回答を受けた。85%以上を目指し、「めあて」を通して毎時間「振り返り」を行い、より良い学習内容の定着を図る。
- ② 学校評価アンケートでは、「一人一人の生徒を大切にしたい、個に応じた学習がされている」に、生徒の肯定的な意見が81.0%と昨年度に比べて約7%以上、上がった。数学・英語での少人数授業や学習教室での指導などの成果だと考える。さらに定期考査前の学習教室と明けテストを実施した。今年度は長期休業中の家庭学習のあり方を検討し、最小限の取組ができるように改め、生徒が意欲的に学べるようにした成果だと考えている。今後も少人数授業等の取組を続けていくとともに、効果的な学習の方法の収集と検討を重ね、保護者と共通理解を深め、自分で学習する力の定着を図る。
- ③ 習熟度別少人数授業は、生徒が自分の学力に合わせて学習できるので、生徒・保護者から好意的に受け止められている。一方、習熟度別少人数授業が生徒の学力向上に効果的か他の形態の授業など工夫できないかを検討しより良い学習形態を求めていく。
- ④ 体育の授業では毎時間、サーキットトレーニングを行っている。これにより運動量が確保されているため、生徒・保護者からこの項目について支持を得ている。次年度も続けていく。
- ⑤ 評価・評定においては不適切な評価を出さないように、年度当初に評価計画を提示し確認した。そして、教員同士による相互点検を、毎学期行った。特に第三観点の「学習に取り組む姿勢」は評価資料・評価規準を明確にして、適切に評価することを、年度当初確認した。学校評価アンケートでも、生徒の学力、能力、努力を適切に評価しているに関し、保護者からは肯定的な意見が昨年度より6%以上、上がった。

(2) 規範意識の高い、心豊かな生徒の育成

- ① 年間3回のふれあいアンケートや長期休業明けのアンケート、トーキングタイム等を行い、早期発見早期解決を次年度も心掛けて取り組む。
- ② 生徒の困り感を素早くつかめるように教員全員で対応した。また、問題発生や課題を見つけた際は、学年、学校がチームとなり迅速に対応し、保護者への丁寧な説明なども行った。
- ③ 今年度、夏用標準服としてポロシャツを導入した。着用のルールを生徒にも考えさせた。学校の決まりを生徒に自分事ととらえる契機になった。生活の決まりについて保護者からも問い合わせがあったので、保護者にも分かるように決りを改めていく。
- ④ 学校の生活指導の取組としての「あじみこし」が定着している。特に「あいさつ」は保護者や来校者からも高い評価を得ている。来年度はさらに「失敗から学ぶ」を「し」に含め、主体的に行動する意欲に結び付けたい。
- ⑤ 4月に情報モラル教室を実施したが、スマートフォンをめぐるトラブルが本年度もあった。トラブル

の未然防止はとても難しい課題だが、生徒と保護者に正しい使用方法について情報提供し、学校と家庭の共通認識をもって取り組んでいく。

- ⑥ 弁護士を講師に招き、2月に1, 2年生対象に違法バイト、3月に3年生対象にデートDVの講演会を行った。規範意識をもち、良識を有し、自律できる人への育成につなげることができた。

(3) 夢や希望を育む進路指導

- ① 本年度も第2学年で職場体験を実施することができた。また、3月に1年生対象に区内で活躍している方を講師として、「職業人の話を聞く会」を行った。生徒は社会で活躍する姿や活動する意義を学ぶことができた。次年度も実施したい。
- ② 学校評価アンケート No17 では保護者のポイントは昨年度より12%近く上がった。①のように講師を招いた活動や練馬区教育課題研究指定校としての取組が評価されたと捉えている。3年間を見通したキャリア教育が実施できるように全体計画・年間計画を見直していく。

(4) 主体的に関わる学校行事、諸活動の実施

- ① 運動会や移動教室、合唱コンクール等の各行事では生徒が中心となって運営できた。そのため学校評価アンケート No18 では生徒・保護者共92%以上であった。生徒たちはとても意欲的に取り組めるよう、教員が細やかに指導している賜物である。これを本校の伝統として継続していきたい。
- ② スポーツ庁や文化庁のガイドラインを遵守し、部活動を適切に運営している。都や区の今後の動向が不明瞭であるため、中期的な方向性を示せないでいる。また学校規模が小さいため顧問の確保が乏しく部活動運営は教員の働き方改革を進めながらどうすれば良いか、生徒の活動を中心として保護者を巻き込み考えていきたい。

(5) 特別支援教育・小中一貫教育の推進

- ① 隔週で適応推進委員会を行っている。巡回臨床心理士やMSURの教員と連携を取りながら、特別な支援を必要とする生徒への対応を検討・実施することができた。
- ② 今年度から特別支援学級とのポッチャの交流活動を定期的に行う。特別支援学級と通常級との直接交流を通し生徒同士の関係を深めることができた。特別委員会や生徒会活動と一緒に直接交流を来年度も継続していく。
- ③ 学校評価アンケートの小中連携に関する項目では生徒・保護者共にポイントが増加した。小学生の中学校体験、中学1年生によるリトルティーチャー、小中合同の挨拶運動を年2回行っている。今年度は中学校体験の前に小学生からのアンケートをとり、それに生徒会が応える取組を実施したことが高評価につながったと考える。来年度も継続する。

(6) 安全・健康への配慮

- ① 生徒の災害時の素早い判断力と行動力を向上させるため、毎月の避難訓練・安全指導では課題を提示して実施することで、生徒に避難に際しての判断力、行動力を養っていると考えている。
- ② 学校評価アンケート No25 では生徒から90.1%と高い評価を得ている。給食は栄養教諭が中心となり、栄養・衛生管理を適切に行うだけでなく、栄養教諭からの毎食の給食カードや巡回指導の成果である。

(7) 地域に開かれた学校づくり

- ① 運動会も文化発表会も PTA の協力により、全学年の保護者に観覧いただくことができた。学校公開は年 4 回に減ったが、その趣旨は生徒・保護者に理解されていると捉えている。来年度も保護者や地域が学校行事や学校公開に参加しやすいよう、PTA 等と協力していく。
- ② 電話や来客への教職員の対応について、学校評価アンケート No27 で、保護者から 91.4%の肯定的な意見をいただいた。副校長補佐や職員が丁寧に対応されている姿が職員全体に広がっているからと捉えている。今後も丁寧な対応を進める。
- ③ 学校だよりやホームページを活用し、積極的に情報発信を行うことができた。
- ④ Sigfy を活用した通知の配布、Google forms を活用したアンケート等など、保護者の負担感や紙の使用量を減少させ、即時性や簡便性が高い ICT のお陰である。しかし回答率は減少している。連絡方法や実施期間等については今後検討する。

2 根拠となる資料

令和 6 年 11 月実施「学校評価アンケート」の肯定的な意見
(4 段階中「そう思う」「やや思う」の割合)。

NO.	質問	生徒 90.1% (回答率)	保護者 51.6% (回答率)	教職員 75.0% (回答率)	評議員 40.0% (回答率)
1	生徒は学校に行くことが楽しいと感じている。	79.8%	81.5%	95.2%	100.0%
2	生徒は安心して学校に通うことができている。	89%	86.1%	100.0%	100.0%
3	授業は 1 時間の「めあて」が明確になっている。	77.9%	72.8%	100.0%	100.0%
4	一人一人の生徒を大切にしたい、個に応じた学習指導(はたらきかけ)がされている。	81%	75.5%	100.0%	85.7%
5	話し合い活動・発表活動・読書活動など言語活動を重視した授業が進められている。	88.2%	82.8%	95.2%	100.0%
6	生徒用タブレットなど ICT 機器を活用した授業が進められている。	89.7%	82.1%	81%	100.0%
7	明けテストや学習教室を行い、家庭学習の習慣が進むような取組をしている。	88.2%	80.8%	95.2%	100.0%
8	習熟度別少人数学習により、意欲や学力を高める取組が進められている。	86.7%	78.8%	100.0%	100.0%

9	保健体育科の授業を中心に、十分な運動量を確保する取組が進められている。	93.5%	84.1%	100.0%	100.0%
10	生徒の学力、能力、努力を適切に評価している。	85.9%	78.8%	100.0%	100.0%
11	生徒一人一人が大切にされ、生徒の気持ちに寄り添った対応が行われている。	81.7%	74.8%	95.2%	100.0%
12	生徒が学校生活の決まりを守れるよう適切に指導している。	87.8%	88.7%	95.2%	100.0%
13	生徒は「あじみこし」（あ：挨拶、じ：時間、み：身だしなみ、こ：言葉遣い、し：姿勢）の大切さを理解できるような指導（はたらきかけ）が行われている。	88.2%	88.7%	90.5%	100.0%
14	いじめ未然防止のための生活指導・教育相談・環境整備に努めている。	83.3%	83.4%	100.0%	100.0%
15	家庭と協力し、インターネット・SNSトラブルの未然防止に努めている。	84%	78.1	85.7%	100.0%
16	将来の生き方を考えさせたり、体験させたりする適切な進路指導が行われている。	87.8%	77.5%	95.2%	100.0%
17	三者面談・キャリアパスポート・進路希望調査などを通じて家庭と連携し、適切な進路指導が行われている。	88.2%	83.4%	95.2%	100%
18	運動会や文化発表会などの学校行事では、生徒が中心となって活動している。	92%	94%	100.0%	100.0%
19	生徒会・委員会活動などの生徒の主体的活動を促す指導（はたらきかけ）が行われている。	91.6%	90.1%	90.5%	100.0%
20	部活動の指導は適切に運営がされている。	84.8%	74.8%	81%	100.0%
21	特別支援教育に力を入れ、生徒同士の交流や共同学習を進めている。	84.8%	82.1%	100.0%	100.0%
22	授業体験や行事を通して南が丘小・南田中小と連携する活動を進めている。	82.1%	87.4%	95.2%	100.0%
23	セーフティ教室、避難訓練、などの安全指導の充実に取り組んでいる。	88.6%	92.7%	95.2%	100.0%
24	掃除が行き届き、施設・設備を含めてよりよい環境の整備に取り組んでいる。	87.1%	88.7%	95%	100.0%
25	給食の献立は工夫され、栄養のバランスが良く、安全である。	90.1%	88.7%	100.0%	100.0%

26	保護者や地域の方々は学校行事や授業公開に参加しやすい。	77.6%	88.7%	90.5%	100.0%
27	電話をしたり学校を訪問したりした際の教職員の対応は親切で好感がもてる。	—	91.4%	100.0%	100.0%
28	学校は保護者・地域に対して、学校の教育内容等を学校だよりやホームページ等で積極的に発信している。	—	86.1%	100.0%	100.0%
29	学校は保護者・地域と連携しながら学校を運営しようとしている。	—	87.4%	100.0%	75%
30	言語活動を重視した授業により、考える力や表現する力が高まった。	85.6%	—	—	—
31	ICT機器を活用した授業を通じて、授業に取り組む意欲が高まった。	84.4%	—	—	—
32	少人数習熟度別の取組により、学習への理解が深まった。	85.2%	—	—	—

※ 令和6年11月11日～11月25日実施の「学校評価アンケート」の肯定的な意見（4段階中「そう思う」「ややそう思う」の割合）

3 学校関係者評価

「学校評議員会」（令和7年2月18日実施）での協議内容

（1）成果

- ① 生徒たちが明るい表情で登校している。
- ② 生徒は思春期である。学校や教員を批判的に見ることが多い。そんな中で保護者の数値より生徒の数値が高い項目がたくさんある。とても嬉しいことだと考えている。
- ③ サーキットトレーニングが行われ体力が維持されていることはとても良い。文化系の部活動に入部している保護者や部活動に入っていない保護者から「サーキットトレーニングを行って運動量を確保していただきとてもありがたい」との意見を聞いている。
- ④ 小テストの取組は教員の苦勞が多いと思うが、短い範囲で自分の苦手箇所を把握しやすいので大変良い。
- ⑤ 学校評価アンケートから、生徒や保護者が多くの行事からたくさんのことを学んでいることが読み取れる。授業からだけではなく、特別支援学級や連携する小学校との交流からも、多くを学んでいる様子がうかがえる。

（2）課題

- ① 学校評価アンケートの回答率が生徒（82.9%）と保護者（63.5%）で乖離が見られる。Formでの回答で忘れて方もあるが、保護者が学校に関心がないことも考えられる。
- ② 部活動について、公立中学校ではやりすぎなくても良いのではないかと。反対に、部活動をなくしてもよいものだろうか。難しい課題である。部活動の運営については、保護者も不安に感じている。変え

るのであれば急な変更ではないようにしてもらいたい。

- ③ 学校評価アンケートの No26 で、生徒の肯定的な意見が低い(77.6%)のはなぜか。生徒と保護者(88.7%)の状況の差は面白い。保護者が学校に来てもらう方策を更に考えてほしい。

(3) 改善策

- ① 学校だよりやホームページ、Sigfy 等を活用して学校の様子や学校経営計画の進捗状況を発信し、学校の教育活動に対して保護者に興味・関心をもってもらうようにしていく。
- ② 部活動については区の動向を待って、徐々に変革していく。
- ③ 生徒のダンス発表会やビブリオバトル、プレゼンテーション活動など、保護者が目や耳で活動が分かる活動と公開日と重ねることで、保護者にひいては我が子の様子に興味をもたせ、学校に足が向くようにしていきたい。

4 評価結果の公表等

(1) 令和7年3月に以下の方法で公表する。

- ① 学校ホームページでの公表
- ② 学校だよりでの公表
- ③ 保護者会での説明

5 次年度の学校改善に向けた校長の見解

【中期目標との関連】

(1) 確かな学力の定着・体力の向上につながる授業の実践

- ① 昨年度より行っている教員毎に授業アンケートを、7月と3月に実施する。年度の前半と週末に行うことで、教員の授業改善に取り組む意欲にも成っている。生徒にも「あなたが、どうすれば授業が良いものにできるか」を問うことで、授業の当事者意識を涵養している。
- ② 「家庭学習のすすめ」の発行、定期考査前の学習教室、長期休業明けのテストは、生徒が学習に取り組む環境づくりに役立っている。今年度は家庭学習の基準、特に学習時間をミニマムにしたことで、生徒が意欲をもって学習に取り組めるようになった。
- ③ 校内別室指導事業(本校名称「ほっとすルーム」)の活動は、本校に定着してきた。定期的に通う生徒が出てきたり、入学当初から利用希望をしたりする生徒も出てきた。活動が定着してきたことで、現在利用している生徒を優先的に考えようとする意見も教員内に出てきている。開設の原点、目的に立ち返り、活動を見直す必要もある。

(2) 規範意識の高い、心豊かな生徒の育成

- ① 今年度、夏用標準服にポロシャツを導入した。夏の猛暑対策として、また安価で家庭での洗濯等の手入れがしやすいポロシャツの導入は、生徒、保護者、学校評議員より高い評価を得ている。さらに、ポロシャツの導入に向けて、生徒にその着方を投げかけたことで、生徒の学校の決まりへの当事者意識も高まったように感じている。
- ② 「あじみこし」の取組は、保護者や来校者からも高い評価を受け、生徒たちも本校の良さとして認識してい

る。来年度も、学校教育指針の「自律」を意識した、「し・せい：物事に向かう姿勢（心の姿勢）」を指導の中心に据え、心が伴った行動ができる生徒を育てていく。

③年度当初の情報モラル教室、3月に1・2年生向けに外部講師を招いて「闇バイト」の授業を行った。しかし、相手を考えてのスマートフォンの利用ができない生徒もいる。保護者の中にも、危機意識が薄い方も見受けられる。スマホが、犯罪行為や犯罪組織とつながる入り口であることを、学校ではなく保護者・家庭が指導の中心となるよう、さらに保護者の意識を向上させていく。そのために保護者に情報提供をしたり、保護者同士が共通認識をもてたりできる啓蒙活動を継続的に進める。

（3）夢や希望を育む進路指導

①生徒・保護者等には、今年度より練馬区教育課題研究指定校として「キャリア教育」に取り組んでいることを、学校便り等で知らせていることで、進路指導にこれまでより高い評価をいただいた。

②生徒が将来の在り方（理想とする自分像）を考え、深められるよう活動していく、本来のキャリア教育へは、まだ不十分である。教員の意識改革と共に、総合的な学習の時間や特別活動との活動の精選、見直しが課題である。

③来年度もキャリア教育を柱に、総合的な学習の時間や特別活動との連携を含め、3年間を見通したキャリア教育が実施できるよう研修を進める。

（4）地域に開かれた学校づくり

①今年度から学校公開は年4回となったが、10月の文化発表会を始め、ダンスやビブリオバトルなどの発表活動を学校公開日に設定したことで、地域に開かれた学校について、保護者から肯定的な意見をいただいた。

②「ほっとすルーム」や地域未来塾などの事業において、地域住民や区内の大学生を活用して、運営できた。

③ホームページは250回以上記事を更新するなど、積極的に学校や生徒の活動の様子を発信した。さらに、Sigfyを活用することで学校からの連絡や配布物が確実に保護者の手元に届く工夫をしてきた。来年度もこれらを実行することで、本校の教育活動への理解が増し、連絡通知の漏れがないようにして行く。

【まとめ】

今年度の教育活動は、学校評価アンケートの結果を踏まえると生徒・保護者等から、概ね高評価であったと言える。これは、校長の基本方針を縦糸とするならば、教職員が基本方針の理解し、教科活動を中心に、学年や校務分掌部の連携することで横糸として、一つの素敵な織物となったこと捉えている。

昨年度と比べ、これまでと異なる活動や取組は、練馬区教育課題研究指定校としての教育活動の推進と、夏の標準服にポロシャツを導入したことである。

どちらの取組も生徒保護者からは高評価をいただいて、ひとまず安心している。しかし、練馬区教育課題研究指定校として「キャリア教育」への教職員の取組姿勢には、課題がある。

校長の学校経営基本方針の「学ぶにあふれ 自律した社会人への基礎を築ける学校」にある「自律」できる生徒を育て創るために、生徒一人一人に、将来の在り方を考えさせる「キャリア教育」の推進を、校長自ら先頭に立ち進めて行く。